

探究的な課題解決を通じた情報活用能力における情報収集

横浜市立美しが丘東小学校 教諭 島田 聡介

小学校3年 総合的な学習の時間 しまった！～情報活用スキルアップ～

番組の特徴

「情報」を収集・整理・判断する視点を学べる番組。
出演者の児童がしてしまいがちな失敗をし、それに対応する視点で、問題を解決する過程が特徴である。

研究の概要

国語科と社会科をつないだ総合の時間をデザインした中で、本番組を活用し研究を進めた。自分の意見を付箋紙に書き表し、その後グループで比較したり整理したりし、結果を全体で共有する学習形態をベースに実践に取り組んだ。その結果、番組から必要な情報を読み取る項目と、読み取った情報を基に自分の考えをもつ項目や学習を今後の生活に役立てようという項目で児童の意識の向上が見られた。

授業デザイン（1 単位授業時間）

単元：まちプロになろう

目標：スーパーマーケットで働く人たちの思いがもっと分かるようなインタビューを考えよう。

| | |
|------|---|
| 導入 | 社会科スーパーマーケット見学の振り返りをし、インタビューで聞きたいことがうまく聞けなかった体験を思い出す。 |
| 課題把握 | 「どうやったらきちんとインタビューができるかな」 |
| 番組視聴 | 「インタビュー」 |
| 話し合い | 「しまった」ポイントについて話し合う。 |
| 自力解決 | 「スーパーマーケットで働く人たちの思い」が分かるような質問を考える。 |
| 協働解決 | 視点に沿った質問をグループで話し合いまとめる。 |
| 全体共有 | 話し合ったことを全体で共有する。 |
| まとめ | 学習について話し合う。 |



番組や関連動画クリップの活用意図

全員が課題をもつための番組視聴

視聴前から課題をもつ児童と、すでに満足している児童たちの双方に、課題をもたせるため活用した。また、不安を抱える児童に対しても、やってみようと意欲をもつことができる番組構成のため。

日常と学習をつなぐための番組視聴

スピーチの発表や友達の紹介などで、必要な情報だけを要約したり抜き出したりする活動をしてきた。視聴を通して、インタビューで大切な活動と日常の活動を自然につなげる内容であるため。

思考の可視化にかかわる教師の工夫

付箋紙の利用

日頃からグループでの話し合いに付箋紙を利用し、「発散⇒収束⇒発展」という流れに合わせてそれぞれの情報をまとめる手立てをとった。特に「収束」の流れにおける、自分の意見とグループの意見との交じり合いの中で、自分の立場や考えをもてるようにした。



まなボードの利用

それぞれのグループで出た結論を全体で共有するために、付箋紙と結論が書かれたまなボードを発表後黒板に貼り、全児童が見えるようにした。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から（ノート記述）から

- できていると思っていたけど、「しまった！」を見てどうしてそのお店で働いているのか聞いていないことに気がきました。
- ぼくはメモをする役割になったので、短い言葉だけど意味が分かるように書きたい。
- 早くスーパーマーケットに行ってインタビューをしたい。

評価シートから（単元当初と単元終わりとの比較）

- 番組から課題に沿った必要な情報を読み取ることができる
- 番組から読み取った情報を基にして自分の考えをもつことができる。
- 学習を今後の生活に役立てようという気持ちになった

実践を終えて

番組を活用することで、明確に児童の学習に対する意欲が向上している。友達間での問題が起きた際に、番組に似た事例がないか尋ねる児童もいる。番組を通すことで、児童の実感を伴った理解や解決が図られていると思われる。情報教育と銘打つ教材が浸透しないと見受けられる現状で、本番組「しまった！」がもつ意義と有用性は評価シートにも表れたと考える。本研究を基に、情報活用能力における収集・整理・判断の力をより養っていきたい。